点検 復興計画 ⑩ 宮古市

震災5年

まちづくり

15年度内で大半完了
跡地の活用策に課題も

宮古市の復興事業は、東日本大震災から5年を迎え、高台移転団地や区画整理の事業完成が間近となった。災害公営住宅もほぼ全戸が完成し、被災者の生活再建の基盤が整いつつある。今後は公共施設を移転集約する中心市街地拠点施設整備事業が本格化。地域の持続的な発展につなげられるか、復興まちづくりの現状と課題を探った。

宮古市の復興まちづくり事業は土地区画整理2地区、防災集団移転（防集）5地区、漁業集落防災機能強化（漁集）9地区で施工　始時期が1年先送りさ　宮古湾の入り口に面し、古くから漁業の拠点として栄えた鍬ケ崎地区。15年度内に蛸の浜町や山根町、鍬ケ崎上町などの計126戸が使用可能となり、16年度末までに周辺の計104戸の工事を終える。区域内の災害公営住宅（40戸）は昨年12月に完成した。

鍬ケ崎上町周辺は現在、店舗や住宅の建築が進む。昨年10月にい　ち早く電器店を再開した島崎秀男さん(68)もその一人。「かさ上げ工事がない場所で引き渡しは早かった。明かりがともったと喜んでくれた顧客も多かった」と語る。

区域内の計画人口は730人。引き渡される土地の利用意向は住宅や事業所など9割近くで固まっているが、どの程度の居住人口を確保できるか見通せない面もある。島崎さんは「高台に再建した人も多く、人が戻るには長い時間がかかる」と受け止める。

市内最大の被害を受けた田老地区は、昨年11月に防集（232戸）による「三王団地」の完成を記念したまちびらき式典が行われた。1月末現在、自力再建　れ16年度末となったが、宅地の順次引き渡しが進み、新たなまちの姿が見え始めてきた。災害公営住宅（40戸）は昨年11月に完成、国道45号沿いには3月に田老野球場が完成し、移転整備される道の駅たろうも夏以降の順次オープンを予定。震災から5年を経て、まちの基盤が整う。

今後は市が防集で買い取った土地の活用も課題となる。5地区の計32・6㌶のうち、活用方針が定まったのは約3割にとどまり、16年度にかけて集約化の基礎調査を進める。市都市計画課の中村晃課長は「宅地整備は形になった。跡地の有効活用を図っていきたい」と方策を探る。

土地区画整理事業が展開される宮古市の鍬ケ崎地区。店舗や住宅の再建も進み、新たなまちの姿が徐々に見えてきた

復興まちづくり事業のスケジュール

事業項目	事業地区	2015年度	16	17
土地区画整理	田老 19ha、220戸	用地・設計 / 造成工事	●住宅再建	
	鍬ケ崎・光岸地 23.8ha、270戸			●
防災集団移転	田老 232戸	15年9月完成		
	崎山 30戸	13年12月完成		
	高浜・金浜 52戸			
	法の脇 12戸	14年3月完成		
	赤前 46戸			
津波復興拠点	津軽石 約1.2ha		●使用開始	
	中心市街地 約1.6ha		（18年7月末完成）	
漁業集落防災機能強化	損待 3戸	13年7月完成		
	小堀内 2戸	14年3月完成		
	浦の沢・追切 2戸	13年3月完成		
	音部 3戸	14年7月完成		
	重茂 21戸	15年3月完成		
	千鶏 3戸	13年12月完成		
	女遊戸（集落道）			
	石浜 2戸	14年7月完成		
	田老野原（集落道、用地造成）			

※県の復旧・復興ロードマップ（1月25日公表）による。事業スケジュールは変更になる場合がある

来月中に整備終える
仮設解消 18年度末目標

災害公営住宅

宮古市内の災害公営住宅は県の12団地341戸、市の14団地419戸の計26団地760戸が整備される。3月中に磯鶏上村と田老高台2が完成し、当初計画された団地は全て整備を終える。被災者の意向調査に基づき追加整備される山口（23戸）も2016年度の完成を予定している。

災害公営住宅の整備は用地交渉の長期化や入札不調も少なく、比較的順調に進んだ。近内地区は既存の雇用促進住宅を改修し、土地区画整理や高台移転団地の区域内に建設する場合も、用地を先行して造成するなど早期完成につなげた。

入居の動きが進む半面、1日現在の空き戸数は周辺部の15団地で82戸に上り、入居者のうち65歳以上の独居世帯は29・9％を占める。団地単位の自治会はないため、孤立化を防ぐ見守り活動や地域との交流が欠かせない。

今後は仮設住宅の撤去・集約化も進む。市内に整備された61団地1949戸のうち1月末現在、800戸に1617人が入居する。市の計画によると、宮古二中、鍬ケ崎小、赤前小、重茂小の学校敷地内の団地の撤去・集約を16～17年度に優先させる。

入居者の退去時期を見据えながら15年度の1団地を皮切りに、16年度は6団地、17年度は17団地、18年度は15団地の撤去・集約に取り組む。2団地は被災者以外の入居を受け入れる用途変更を行い、最終的に20団地に集約。18年度末には全団地の解消を目指す。

将来的に災害公営住宅は公営住宅として管理される方向だが、既存の市営・県営住宅（1381戸）と合わせた維持管理が課題となる。市は老朽化した市営住宅を用途廃止し、災害公営住宅への移転を順次進める計画を示す。

市建築住宅課の松下寛課長は「市の財政負担も考慮しながら、既存の市営住宅と合わせた適正な戸数管理に努めたい」と話す。

災害公営住宅の整備状況

県整備・349戸	完成済み：本町（34戸）、西町（23戸）、津軽石（35戸）、上鼻（24戸）、八木沢（42戸）、佐原（50戸）、磯鶏（30戸）、宮町（20戸）、鴨崎町（20戸）、実田（17戸）、西町2（30戸）
	15年度末完成：磯鶏上村（24戸）
市整備・417戸	完成済み：田老高台（36戸）、田老（40戸）、崎山（24戸）、日の出町（26戸）、鍬ケ崎（40戸）、黒田町（24戸）、和見町（23戸）、西ケ丘（24戸）、高浜（12戸）、金浜（12戸）、赤前（14戸）、重茂（4戸）、近内①（40戸）、近内②（40戸）
	15年度末完成：田老高台2（35戸）
	16年度末完成：山口（23戸）

※県の復旧・復興ロードマップ（1月25日公表）による

駅中心に新たな拠点
市役所本庁舎など集約

中心市街地

JR宮古駅南側に市役所本庁舎など公共施設を移転集約する「中心市街地拠点施設整備事業」は3月下旬の実施設計契約に向けた準備が進む。市議会では関連条例案の審議をめぐって混乱もみられたが、駅を中心としたまちづくりや災害時の対応に寄与する新たな拠点として、2018年7月下旬の完成を目指す。

宮古駅南側の線路を挟んだ1・64㌶の事業用地では、敷地内から検出された汚染土壌や産業廃棄物の石炭焼却灰を含む土壌（計9400立方㍍）の撤去に向けた作業が進む。16年度上半期にかけてJR東日本と市が作業を行い、本体工事の着工は10月上旬を予定している。

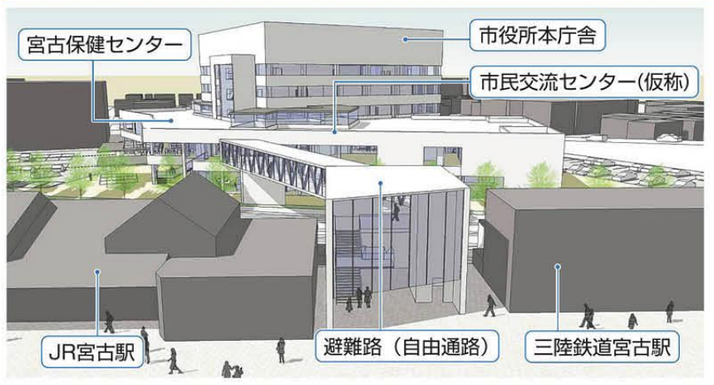
同事業は、震災で市役所本庁舎が一時孤立した教訓を踏まえ、市役所本庁舎（延べ床面積8253平方㍍）、仮称・市民交流センター（同4830平方㍍）、宮古保健センター（同1274平方㍍）を一体的に整備し、JR宮古駅側に通じる避難路（自由通路）も整備。復興交付金や合併特例債を活用した事業費は110億円と試算している。

事業決定に至るまでには、汚染土壌の処理計画やアクセス道路の用地取得などをめぐり議会側が不信感を募らせ、昨年の12月定例会では市役所の位置を定める条例改正案が否決された。その後、今月1日の臨時会で再提案され、逆転可決された。このほか交流センターの多目的ホール（280平方㍍、最大200席）の規模や議会フロアの配置も実施設計で検討する。

来客用駐車場は140台分を確保する計画だが、交通の集中による渋滞の懸念も根強い。事業用地に近接する南町町内会長の山崎博司さん(83)は「災害時の避難場所として機能するとは思うが、車や人の流れが集中すると見込まれるので、アクセス道路の整備をしっかりしてほしい」と求める。

移転後の現本庁舎の跡地活用も課題で、基本構想案では公園や震災のメモリアル施設などが示され、16年度に策定する基本計画で具体化を図る。半世紀に一度の大型事業推進に臨み、市復興推進課の多田康課長は「実施設計の段階でも丁寧な説明に努め、市民理解を醸成していきたい」と強調する。

中心市街地拠点施設の整備イメージ



視点

市民の声 施策に反映を

宮古市の復興まちづくり事業は、震災5年を経ておおむねの完成を迎えた。今後は将来のまちづくりを見据えた「中心市街地拠点施設整備事業」やJR山田線宮古―釜石間の三陸鉄道への運営移管準備などが本格化し、まちの姿は今後も大きく変貌していくだろう。

産業面では、2018年6月の開設を目指す宮古―室蘭（北海道）間のフェリー定期航路や復興道路、復興支援道路の整備など好材料がある。復興の先を見据え、人口減少に歯止めをかける積極的な地域振興策を期待したい。

宮古市は震災で517人が犠牲になり、6千棟近い家屋が全壊した。復興事業は住民合意を重視し、比較的順調に進んできた。生活再建の見通しがついた被災者も多いが、最後の一人まで安心な暮らしを取り戻せるよう、きめ細やかな支援が欠かせない。

拠点施設整備事業や藤の川地区の防潮堤整備など、市民が改善や見直しを求める事業もある。生活を守ることに必死だった時期を乗り越え、将来のまちづくりを考える余裕が生まれてきたとも言える。行政は市民の思いを受け止め、施策に反映させる姿勢が求められる。

（宮古支局・八重樫和孝）

県内13市の天気予報

＊右端は気温（左上は今日の最高、右下は明日の最低）
日本気象協会東北支局発表

	6時	9	12	15	18	21	0	3	6	9		
久慈											10	-4
二戸											6	-6
八幡平											5	-6
盛岡											6	-5
花巻・北上											7	-5
遠野											7	-4
奥州											7	-5
一関											9	-4
宮古											12	-2
釜石											10	1
大船渡 陸前高田											11	0

天気図内のマークはきょうの全国の天気

概況 21日は低気圧が北上し冬型の気圧配置が強まる。内陸は朝晩を中心に雨や雪が降りやすい。沿岸は晴れる。海上は南西の風が非常に強い。海上の波の高さは、21日は波5㍍のち3㍍、22日は波3㍍のち1・5㍍。

22日(月)　旧1月15日　宮古（潮位cm）
大潮　満 3:58（32）　潮 14:57（47）　干 9:15（-16）　潮 21:46（-73）
日出 6:20　日入 17:19　月出 16:55　月入 5:44　月齢 13.5
盛岡

23日(火)　旧1月16日　宮古（潮位cm）
大潮　満 4:20（35）　潮 15:36（48）　干 9:49（-25）　潮 22:17（-70）
日出 6:19　日入 17:20　月出 17:53　月入 6:18　月齢 14.5
盛岡

世界の天気（上から天気、最高、最低）

	ソウル	北京	シンガポール	ジャカルタ	シドニー
	（19日）	（19日）	（19日）	（19日）	（19日）
	晴	晴	雨	晴	晴
	5	7	28	31	29
	-3	-2	23	21	13
	パリ	ロンドン	モスクワ	ニューヨーク	
	（18日）	（18日）	（18日）	（18日）	
	雪	雨	晴	晴	
	4	1	8	2	
	-2	-1	-7	-3	

（AP＝共同）

県内・全国の気温　20日（▲は平年比低）

	最高	平年比	最低	平年比	天気
岡古渡戸	4.8	1.4	0.6	5.5	雨
盛宮大船渡	8.1	2.7	1.4	4.9	雨
二久慈北釜江一	9.5	4.1	1.1	3.5	雨
	4.2	1.2	-2.0	4.1	雨
	6.0	1.6	-2.0	2.6	雨
	4.4	1.4	-1.3	5.2	雨
	6.2	2.6	1.2	5.1	雨
	8.8	3.2	2.6	5.4	雨
	6.2	2.4	0.4	4.9	雨
	6.3	1.1	-0.3	3.0	雨
釧札八秋仙福水東新長静名古京大広松高鹿那	4.4	4.5	1.2	10.3	雪
路幌戸田台島戸京潟野岡屋沢都阪島江知岡島覇	4.4	3.9	-0.8	5.5	雪
	5.3	1.7	-0.7	3.0	雪
	7.1	3.1	1.6	3.7	雨
	8.7	2.5	4.5	5.7	雨
	9.3	2.4	4.5	5.6	雨
	13.3	3.7	3.2	4.2	雨
	11.2	0.6	6.5	4.6	雨
	11.2	4.8	5.0	4.7	雨
	7.6	2.3	2.1	5.4	雨
	11.4	▲0.9	7.1	4.2	雨
	8.1	▲2.5	6.3	4.8	雨
	8.4	0.8	5.3	4.4	雨
	10.0	▲0.1	7.7	6.0	雨
	10.0	▲0.6	8.6	5.3	雨
	9.5	▲1.5	6.8	4.3	雨
	8.3	▲1.0	6.3	5.0	雨
	13.0	▲0.4	8.3	4.9	雨
	11.5	0.0	7.6	3.1	雨
	15.9	1.1	11.4	5.0	雪
	21.8	1.7	18.1	2.9	雨

最高気温は県内が18時、全国が15時現在。最低気温は盛岡から大船渡と全国は21～9時　二戸から一関が0～9時、天気は15時現在（宮古から一関と八戸は天気観測なし）

◇沿岸の水温　20日10時現在。（水深）
野田湾　7.6度（5㍍）　釜石湾　8.7度（3㍍）
山田湾　8.2度（3㍍）　大船渡湾　8.6度（5㍍）

未来考え観光復興を

山田町山田
建築業
斉藤　秀喜さん(58)

山田町の観光復興ビジョンを決める策定委員会に参加した。町の将来を考え、いろいろと挑戦することはいいことだが、メリットとデメリットがある。補助金ありきの再建ではなく、復興後の経営について見極めることも問われる。先人が残した山田の文化を受け継ぎ、地域の宝である子どもたちのために何を残せるか真剣に考えていきたい。

教訓と備え

題字
山下文男さん

大槌町吉里吉里
ガールスカウト県連盟第27団団委員長
三浦ヒナ子さん(73)

東日本大震災の際には全国や世界から大きな支援を受けたことを覚えている。台湾南部地震の被災地への支援運動が少しでも大槌に広まればと思い、町内で募金活動をした。寒い中、子どもたちがよく頑張って呼び掛けてくれた。いろいろな活動に取り組む中、お母さんたちも協力的でいつも助かっている。

台湾地震へ募金活動

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。